豊富市街は佐藤久二郎さん

豊富町市街の歴史は、明治39年佐藤久二郎さんが、エベコロベツ川沿いに煙を上げたのが始まりで、「下沼から移動して、この地に茅小屋を造り、たった一人で炊事をはじめた。これが豊富市街開拓の第一歩であり豊富を築いた先覚者である。」と記載されています。明治40年には菱田房吉さんが狩太団体37戸を連れ入地、その年、次に紹介する嘉納久三郎さんが入地し、開拓者50戸を数える新開地となりました。

佐藤久二郎

沙流から豊富へ

明治41年この辺を「沙流」または「エベコロベツ」と称していたので統一するために「豊富」とエベコロベツ住民会で決定しています。この時の会長が嘉納久三郎さんで、とても有名な方のお兄さんであることが、町史に書かれています。

嘉納久三郎さん

弟は、旗頭高等師範学校（東京教育大学）校長を務め、講道館（柔道）の創設者嘉納治五郎さん。久三郎さんは石川島に造船所を設け、京阪間の郵送事業を展開していました。ＨＩＨ（石川島播磨重工）の前進であることが嘉納直久さんの聞き取りで分かりました。久三郎さんの生家は酒造と船舶業を営んでいることから、菊正宗（嘉納家）の製造元でないかと思われ調べて見ました。１６５９年神戸灘に嘉納家が清酒の醸造を開始し（八代店主との関係がよくわからない）嘉納家のゆかりであることは間違いなく、全国的に有名な会社や人物が豊富町と何らかの関係があることを知り忘れ去られた１００年の歳月を感じます。

嘉納久三郎

何でも可能にする

国道40号線エベコロベツ川に架かる橋には嘉納橋（可能橋）との名前が付いていました。この橋から先は「何でも可能にする」という意味があるようで、この橋を渡るたびに先人の方々が「何でも可能にする」努力をし、今の豊富町を築いたのだろうと思います。

この他、たくさんの先人の方々が豊富町を築いてきています。紹介し切れませんが、豊富町の昔が少しだけでも分かれば、１００年の重みが伝わると思います。今年、豊富町史第2巻が発行されます。先代が築いてきた１００年を町民の方々と祝いたいものです。

豊富町の行政年表

（歴史を知らずして合併は語れない）

明治２年８月
蝦夷地を北海道と改める

明治２年９月
テシホ場所を天塩郡に改める（水戸藩支配となる）

明治３年
ワッカシャクナイに陣屋が設けられた

明治４年
水戸藩支配が終わり開拓使本庁の直轄となった

明治５年９月
開拓使宗谷支庁が設けられた

明治６年２月
宗谷支庁を留萌支庁に移す

明治８年
開拓使札幌本庁の直轄　留萌出張所が設置

明治９年
大小区制を定めて天塩郡は第29大区1小区となった

明治11年
郡区制となり、天塩郡沙流村という正式行政地名となった

明治13年
天塩村に天塩郡・中川郡・上川郡を管内とする戸長役場が設置された

明治15年
天塩郡は札幌県に属する

明治18年
天塩郡は苫前戸長役場の所轄時代に入る

明治19年
北海道庁が設置　苫前戸長役場　天塩派出所　沙流地方

明治29年
天塩戸長役場として天塩郡･中川郡･上川郡を管轄（人口は沙流村２名）

明治32年
天塩郡は増毛支庁に入る上川郡分離

明治34年
増毛支庁より中川郡分離

明治35年
梅村庄次郎　沙流村兜沼に来町

明治36年
梅村庄次郎　兜沼に移住
天塩村戸町役場は天塩村・幌延村・沙流村の天塩村他二ヶ村戸長役場と改正された

明治41年
沙流村を豊富村に改める（正式に使用されていない）

明治42年
天塩村二ヶ村戸長役場から分離して幌延村他一村戸長役場となる

大正２年
増毛支庁を留萌支庁に移す

大正８年
２級町村制　沙流村を幌延村に編入して村内に大字幌延村と大字沙流村が置かれた

昭和７年
沙流村分村の建議書を村議会に提出

昭和15年
幌延村を分割して豊富村が置かれた。（人口6,987人）

同年
豊富村を25区に分割した

昭和23年
宗谷支庁の行政区域となる

昭和33年12月
豊富町施行　告示

昭和34年
豊富村から豊富町へ

現在に至